

めぐりと紫波

発行者 NPO法人紫波みらい研究所

TEL019-671-2244 FAX019-671-2243

E-mail miraiken@shiwa-mirai.com

今号では、町が進める「循環型まちづくり」の取組み、第2弾として「紫波型エコハウス」と「エネルギーステーション」のご紹介をします。

◆◆◆紫波型エコハウスとは◆◆◆

町産木材を建材として使用し、かつ、断熱性や気密性などの住宅性能の向上と日射・通風などの自然条件を活用することにより、紫波の気候や風土に調和した快適な屋内環境を保つ住宅です。

「紫波型エコハウスの特徴」

【紫波育ちの木】

森林資源の地産地消を促進するため、主要部分に町産材を80%以上使用することとしています。紫波の風土に合う長持ちのする家でもあります。



【パッシブデザインという手法】

建物の構造や材料などの工夫によって熱や空気の流れを制御し、快適な室内環境をつくり出す手法です。

【紫波の職人の技を生かす】

町の気候や風土を熟知した地元工務店が施工を担当し、この地で育まれてきた木材や受け継がれてきた技術を取り入れることで地域経済の循環も目指しています。

※紫波型エコハウスについては、オガールタウンにとどまらず、町内全域での普及を目指しています。

さらに、今後は既存住宅のエコ改修にもつなげていきます。

オガールタウンは、現在好評分譲中。分譲に関するお問い合わせは下記までお願いします。

紫波町企画総務部企画課 公民連携室 ☎672-2111 (2291)

●紫波型エコハウスでできること●

○エネルギーの消費量が抑えられる

断熱、気密の性能を高め、熱を逃がしにくくするため、少ない暖房で家全体が温まります。また、日差しや風通しの工夫も計算されているので、夏も比較的涼しく過ごすことができます。エネルギー消費量も、一般的な性能の住宅と比べて2分の1～3分の1程度に抑えられることが期待できます。(暮らし方により個人差がでます)

○メンテナンスも安心、長く暮らせる家

町内の工務店など、顔の見える地元事業者による施工であるため、いざというときも気軽に相談できます。また、ライフスタイルの変化に応じた間取りの見直しができる設計を選択することも可能です。

○温度差が少ない健康的な暮らし

冬は、熱を無駄なく利用し、家の中を一定の温度に保つことで、どこでも快適な室温で暮らせます。裸足でも気持ちよく過ごせ、トイレや脱衣所も部屋と室温が変わらないので、ヒートショック(※)を防ぐことができます。

※ヒートショック・・・住宅内の室温差で急激な血圧変化が起こることによる健康被害のこと。これが原因で亡くなる人は、交通事故による死者よりも多いといわれています。

○紫波の豊かな自然を感じながらの暮らし

町産材の有効活用により、構造材だけでなく、外壁や内装にも紫波の自然が育んだ木目を表すことができます。

紫波型エコハウスに住んでみて ～吉田様ご一家～

家族構成は、吉田充さん(37歳)、瞳さん(36歳)と就学前のお子さん(4歳と2歳)の4人です。以前は、盛岡のアパートにお住まいでした。2年の歳月をかけ、オガールタウンに建てる(店舗併用住宅)ことを決め、建設会社もどこがいいのかわからないので、かたっぱしから電話をかけたそうです。紫波町に決めた理由は、「自分の実家と職場の間だったこと、職場の先輩が近所に住んでいて“住みやすい町”と聞いていたから」とのこと。「以前は冬、寒くてパジャマの上にもう一枚着て寝たり、朝方、起きてから、部屋が暖まるまで時間がかかったりして大変だったが、エコハウスでは、真冬でも暖房をつけなくても以前のような寒さを感じないので、前より維持費がかかっていない」そうです。また、「家族みんなが風邪をひかなくなった」とのこと。そして、「保育園、小・中学校、図書館などが近く、子育てしやすい環境に大満足」。

地元建設会社で良かった点は、「設計の段階でこまめに相談にのってくれたし、将来的にメンテナンスやリフォームが必要になった時、近所なので安心」とのことです。

ご主人は、紫波の森林から間伐材を運び出すと「紫波エコbeeクーポン券」がもらえ、その券で毎月の給湯・暖房費の支払いができることを知り、「間伐材を運び隊」にすぐ参加。「地元の参加者たちとの交流が楽しい」と笑顔。

奥様は、「chou-chou hair シュシュ ヘアー」を経営する美容師さん。「家の設計はもちろんのこと、お店のレイアウトや内装にも大満足」とのこと。お客さんが座る足元に暖房のパネルを設置し、冷えないような配慮も。床や壁にはやわらかい色合いの木材を使用し、お客さんにも瞳さんにも居心地のよい店舗となっているようです。



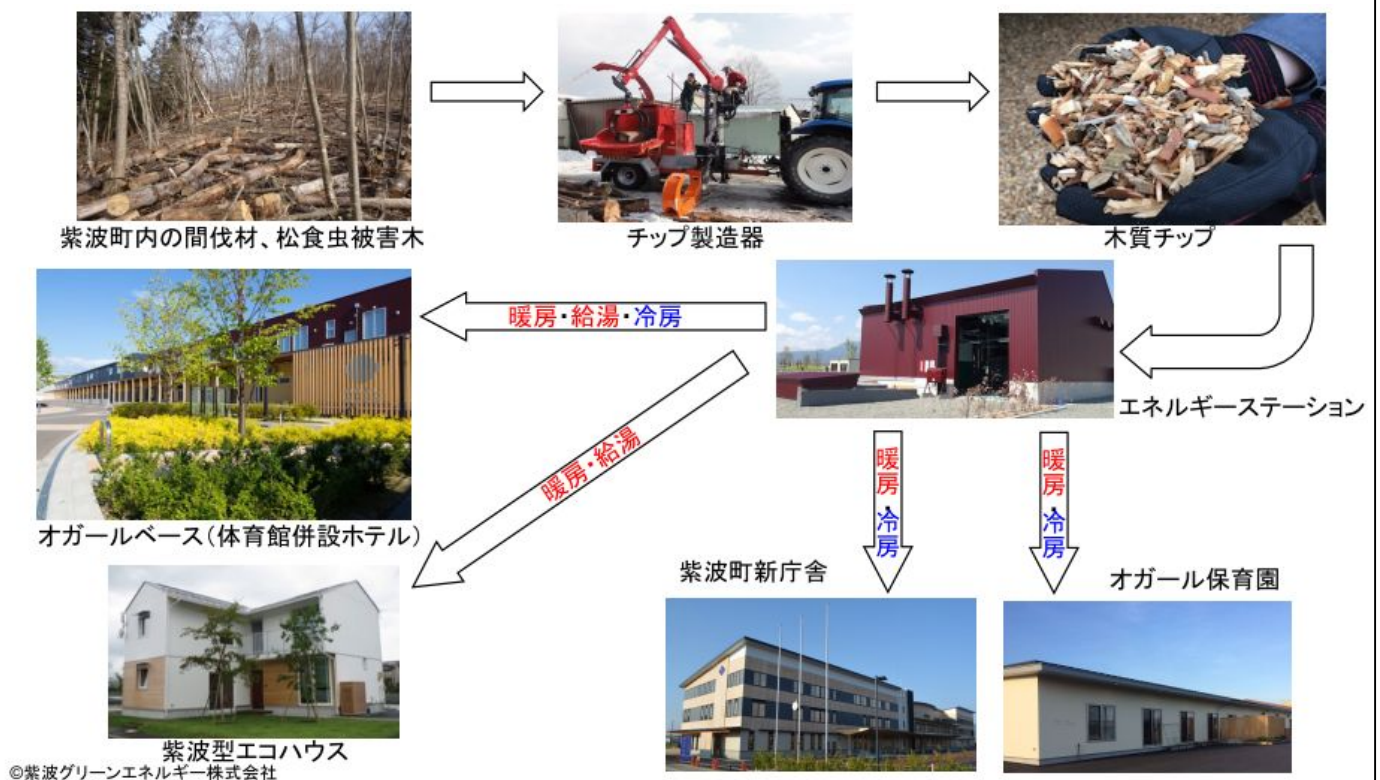
◆◆◆ エネルギーステーションとは ◆◆◆

紫波町の森林から搬出された杉や赤松などの間伐材から作り出される木質チップを燃料に、専用のボイラー（国産）で湯を沸かし、その温水を地中にめぐらせた供給管を通じて、オガール地区内の役場庁舎、オガールベース、住宅等へ届ける地域熱供給を行う民間施設です。エネルギーステーションでつくられた温水は、熱交換器によって、給湯や暖房に使えるほか、冷水供給によって、冷房としても使われています。このチップボイラーは、水分がかなり残っている生チップも燃焼させることができるため、山から搬出した木材でもすぐに燃料として利用することが可能です。

※環境に配慮した木質チップ

山には間伐後の丸太や松くい虫被害木など、さまざまな丸太が残材として残っています。この丸太を山から運び出し、土場で自然に乾燥するのを待って、チップに加工されます（チップ加工と輸送は、紫波町農林公社が行っています）。化石燃料の代わりに木材を使用することにより、二酸化炭素の排出が抑制され、地球温暖化防止に貢献します。

◆地域熱供給の流れ◆



【施設見学をしてみませんか】

森林資源を活用し、地域熱供給を行う「エネルギーステーション」、その熱源を冷暖房に利用する役場庁舎や「紫波型エコハウス」を見学することができます。紫波みらい研究所が自治公民館や婦人会など地域の皆さんによる施設見学をお手伝いします。日程や交通手段（バス移動可）についてご相談ください。また「エコ3センター（堆肥製造施設/木質ペレット製造施設）」「ラ・フランス温泉館（再生可能エネルギー施設）」など環境関連施設の見学も可能です。

【申込先】NPO法人紫波みらい研究所 ☎ 671-2244 FAX 671-2243

前号で「エコショップしわ」の紹介をしましたが、29店舗のうち、今回は、「ビアック大盛軒」の取り組みをご紹介します。(店名のビアックは、“ビール”と“クック”を掛け合わせたもの)

◎登録のきっかけは

すでに認定されたお店から誘われて

◎どんな取り組みをしていますか

- ①ごみの減量化
割りばしと再生はしの選択制
- ②廃油のリサイクル化
- ③食材の地産地消
- ④照明にLEDの導入
- ⑤薪ストーブを導入
(割りばしを焚き付けに)

◎取組んで良かったこと

- ・レシピを考える際、地産地消(町・県食材)のことを常に考えるようになり、積極的に取り入れるようになった。
(白金豚や純米麺、その他野菜など)

- ・生ごみができるだけ出ないように使い切るようになった。

◎お客様の声

- ・地元の食材をふんだんに使っていて地元愛を感じる。
- ・店内の暖房が薪ストーブでやわらかい暖かさと環境に配慮しているところがよい。



紫波町日詰字郡山駅 75 ☎019-672-2813

◆◆ウォームビズ (WARM BIZ) を知っていますか◆◆

環境省では、冬期の地球温暖化対策のひとつとして、暖房時の室温を20℃で快適に過ごすライフスタイルを推奨しています。家庭や職場でできる範囲のウォームビズを心がけましょう。

ポイントとしては、下記のような「衣」「食」「住」のひと工夫がおすすめです！

- 首・手首・足首の「三つの首」を保温
- いつもより一枚多く羽織り、寝る時も首にタオルであたたかく
- 軽くて薄い腹巻など機能性素材の下着
- ひざ掛けやストールを活用
- 「鍋」でからだも室内もあたためる
- 一部屋に集まって他の部屋の暖房や照明はオフ
- 冬が旬の根菜類、しょうがなどの食材を積極的に食べる

- 窓は断熱シート、複層ガラス、二重サッシなどを活用
- 扇風機で空気の循環
- 湯たんぽ、毛足の長いスリッパなど活用
- 入浴でからだも心もあたためる
- ゆず湯、しょうが湯、大根湯などを活用
- 通勤、通学で一駅分を歩いたり、階段を使い体温上昇
- 家や職場で座ってできる血行促進運動

小学生の環境講座 地球温暖化って なあに？



地球温暖化するとどうなるの？温暖化はもう始まっているの？

地球温暖化について学び、私たちができることを考えてみよう！

日時：平成30年1月11日(木) 午前10時30分～12時

場所：紫波町情報交流館(オガールプラザ) 大スタジオ

参加対象：紫波町内の小学4年～6年生

申込み：先着20名(参加費無料・要予約)

NPO法人紫波みらい研究所(日・月曜日、祝日お休み)

TEL 019-671-2244 E-mail miraikenshiwa-mirai.com

めぐりっと紫波は、紫波町産業部環境課の委託で発行しています。